

ひととひと まちとまちをつなぐ芸備線 ～芸備線再構築協議会で取り組む実証事業～

地域交通課芸備線対策係 ☎0824-73-1171

3月25日、第6回芸備線再構築協議会が岡山市で開催されました。

今回は、これまでの実証事業から得られたデータの分析による結果報告のほか、令和8年度に行うバスの実証運行などについて協議が行われました。

主な報告内容

- 駅や駅前イベントは、一定の集客に成功し、消費単価が高く、新規来訪者の獲得にもつながった。
- 観光ツアーは、恒常的な消費拡大に向けて1回当たりの観光消費額の向上が求められる。消費単価向上に向けては、宿泊拠点や土産購入拠点が限られていることが消費の伸び悩みにつながっており、受け入れ環境に課題がある。
- 列車のコンテンツ化は、必ずしも新規来訪者獲得につながっておらず、新規需要の掘り起こしが課題となっている。
- 成果として、実証Aの個別施策が一定の集客につながっており、令和7年度の実証Aの費用5400万円に対して定量的価値は7300万円であった。
- 実証Aの取り組みにより、地域の団結や交流がより深まったといった意見があった。
- 実証Aを恒久化した場合、年間費用8・3億円に対して定量的価値は4・3億円にとどまり、そのうち6割は他の交通手段への波及、4割が地域の受益となる。この原因は、多くが乗車自体を目的としており、地域消費が伸び悩んだことが大きかったと考えられる。

令和8年度に行う実証事業B

日常利用向けのバスの実証運行

6月から、平日の芸備線の運行に合わせたバスの実証運行として、芸備線沿線の主要道路を幹線的に運行するバスの実証運行を実施します。

観光利用向けのバスの実証運行

7月から、休日の観光利用向けとして、6月まで運行している臨時列車と同じ区間・時間帯にバスを運行する予定です。

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 ...

実証事業A (JR芸備線の増便、二次交通)	→									
実証事業B (バスによる実証運行)										
(AB共通)	観光ツアー造成、企画乗車券									
	地域イベントなどの強化・支援									
	実証事業結果のデータ分析									
調査事業	再構築方針作成に関する調査									
	実証事業結果の比較検討									
再構築方針案の協議										

実証事業A:芸備線の可能性追求
実証事業B:最適な交通モードの検討

市の意見

来年度、本協議会は再構築方針作成の目安とされる3年目を迎え、重要な年となる。

本市としては、長期総合計画の「めざす将来像」や地域交通法の基本方針を踏まえ、実証事業などの評価・検証を通じて、本市のまちづくりや観光振興などの観点から、どのような交通モードがより多くの人に利用されるのか、地域経済効果の面で優位性があるのか、また、市民が望む最適な交通モードであるのかといった点について考え、構成員と共にしっかりと議論を深めてまいりたい。



▲実証事業「二連原桜並木・蓮照寺シダレザクラの春を味わう旅」でのひととき

調査結果・資料は、
中国運輸局ホームページを
ご覧ください



実証事業の最新情報は、
市ホームページを
ご覧ください

